

ホケンダイつきいちゼミ(2026年2月号)



Q1. 研究テーマを教えてください。



私の研究テーマは高齢化の進展に対して在宅医療政策はいかに設計されているのか—ベトナム・日本の医療制度を対象とした比較政策分析—という研究です。



Q2. お名前と今の仕事の内容を教えてください。



名前は Nguyen Thi Thuy(グエン ティ トウイ)で、ベトナムの出身です。現在、青森県立保健大学の博士前期課程の1年の大学院生です。毎日、学業と研究に専念しております。以前は病院で総務職員として働いていましたが、今、全時間、学生です。



ホケンダイつきいちゼミ(2026年2月号)



Q3. 研究室名とリーダーの先生を教えてください。



看護基礎科学研究室に所属しております。指導教員は角濱春美教授です。



Q4. どうしてその研究をしようと思ったのですか。



現在、高齢化は世界でも重要な課題となっています。人口の高齢化は、経済発展に影響を及ぼすだけでなく、各国の社会福祉厚生と医療分野に対する負担を増大させます。このような背景から、私は高齢化社会に対応した医療政策の設計について研究することを考えました。日本は、世界中でも高齢化が最も早く、かつ急速に進行している国の一つです。日本における医療政策の設計における成功例および失敗例は、高齢化が進む状況下で医療政策を構築していく過程にある国、とりわけベトナムにとって、有益な教訓となり得ると考えました。以上の理由から、本研究に取り組むことにしました。

ホケンダイつきいちゼミ(2026年2月号)



Q5.それはどんな研究ですか。



本研究は、ベトナムおよび日本の政策に関する二次データ(文献)や、インタビューを用いて行う予定です。日本における高齢化社会への対応としての在宅医療制度の形成過程を整理・分析するとともに、日本とベトナムの社会的背景、医療政策および社会福祉政策を比較分析し、ベトナムの在宅医療制度の構築に向けた政策的示唆を得たいと思っています。



Q6.どんな成果が得られていますか。



現在、研究計画を作成している段階で、具体的な研究結果は得られていません。これまで、高齢化の進展のスピードと日本とベトナムの政策についてまとめてきました。ベトナムの高齢化は日本よりも早く進む可能性が高く、今後大きな問題になることが示されています。

ホケンダイつきいちゼミ(2026年2月号)



Q7.この結果をどんな人にどのように活用したいですか。



具体的な実施規則や運用ガイドラインがまだ整備されていない、ベトナムの新たな医療保険制度(2025年7月施行)に対し、科学的根拠を提供できれば良いと考えています。ベトナムの立法担当者がより具体的な政策立案を行うための資料となり、医療従事者が関連法制度を適切に実施できるようになったら良いと考えています。最終的には、ベトナムの在宅医療を必要とする人々が、適切に制度の恩恵を受けられるようにしたいです。



Q8.皆さんにメッセージをお願いします。



私は自らが生まれ育ったベトナムにおける医療制度および医療政策の発展に、ささやかながらも貢献したいと考えています。また、国際的な視点から医療制度を捉える重要性について関心を持つ人が増えると良いと思っています。たとえ一人でも国際医療制度、ベトナムの医療制度、あるいはベトナムそのものに対してわずかでも興味を抱いてもらえるのであれば、それは本研究を行った意義であり、私にとっての大きな成果です。

ホケンダイつきいちゼミ(2026年2月号)



最後に、研究のことをもっと知りたい！大学院のことをもっと知りたい！場合は、どちらにコンタクトすればいいですか？



対人ケアマネジメント領域 看護基礎科学研究室
博士前期課程の一年生 Nguyen Thi Thuy(グエン ティ トウイ)
メールアドレス: 2581006@ms.auhw.ac.jp



トウイさん、ありがとうございました。
保健大学では、毎月、その年のテーマに沿って、
情報を発信していきます！！